

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成25年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成25年4月24日（水）

3 調査対象

第3学年

4 本校の参加状況

- | | | | |
|-------|------|-----|------|
| ① 国語A | 167人 | 国語B | 167人 |
| ② 数学A | 167人 | 数学B | 167人 |

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・国語 A（知識）の平均正答率は全国平均より高い。なお、正答率の分布状況は、全国と比べ、29 問～32 問正答（正答率は約 90%～100%）の割合が高い。
- ・国語 B（活用）の平均正答率は全国平均より高い。なお、正答率の分布状況は、全国と比べ、5 問～6 問正答（正答率は約 56%～約 67%）、8 問正答（正答率は約 89%）の割合が高い。

<分類・区分別集計結果>

【国語 A】

分 類	区 分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	4	82.8	79.2	77.6
	書くこと	4	68.9	67.1	64.5
	読むこと	6	82.1	82.3	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特 質に関する事項	18	81.0	78.2	77.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	82.8	79.2	77.6
	書く能力	4	68.9	67.1	64.5
	読む能力	6	82.1	82.3	80.0
	言語についての知識・理解・ 技能	18	81.0	78.2	77.5
問題形式	選択式	21	80.9	79.2	77.3
	短答式	11	78.0	74.9	74.7
	記述式	0			

【国語 B】

分 類	区 分	対象設 問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	3	61.5	63.3	62.7
	読むこと	8	71.9	69.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特 質に関する事項	1	56.3	63.0	64.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	61.5	63.3	62.7
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	3	61.5	63.3	62.7
	読む能力	8	71.9	69.9	67.8
	言語についての知識・理解・ 技能	1	56.3	63.0	64.6
問題形式	選択式	5	73.2	70.4	68.2
	短答式	1	81.4	80.9	77.5
	記述式	3	61.5	63.3	62.7

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

【話すこと・聞くこと】

○A 領域の平均正答率は82.8%で、全国平均より5.2ポイント高い

⇒○ 特に、話し合いを捉えた司会者の発言として適切なものを選択する問題では、70.1%の正答率で、全国平均より約15ポイント高い。

【書くこと】

○A 領域の平均正答率は68.9%で、全国平均より4.4ポイント高い。

●B 領域の平均正答率は61.5%で、全国平均より1.7ポイント低い。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

○A 領域の平均正答率は81.6%で、全国平均より4.1ポイント高い

●B 領域の平均正答率は56.3%で、全国平均より8.3ポイント低い。

⇒● 間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを、漢字の特徴を取り上げて説明する問題の無回答率が6.6%で、全国平均より1.2ポイント高く、書け（か）ない生徒を減らしていくことが課題である。

国語に関する生徒質問紙調査の状況

《傾向》

○すべての質問に対し、肯定的回答の割合は全国平均と比べて高い。

○「国語の勉強は好き」と回答している生徒の割合が全国平均に比べて特に高い。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

・話し合い活動の学習の中で、話し合いの仕方、だけでなく司会者の役割、についてもきちんと確認して学習させたい。また、聞き取りテストを行って、メモを取る練習、内容を整理してまとめる練習もさせていきたい。

【書くこと】

・授業の中で、感想や意見など、短い文章を書く機会を増やし、書くこと自体への抵抗を減らしていきたい。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

・漢字の書き取りについては、引き続き漢字小テストを実施して、書く機会を増やしたい。また、その解説の中で、間違えやすい字についても指導していきたい。

・授業の中で、習った語句や、似た意味の漢字、慣用句などを、折に触れて紹介し、語句や漢字に対する関心を高めたい。

2 数学

全体的な傾向

- ・ 数学A（知識）の平均正答率は全国平均より高い。なお、正答数の分布状況は全国と比べ27問～32問（正答率約75%～88%）の割合が高い。
- ・ 数学B（活用）の平均正答率は全国平均より高い。なお、正答数の分布状況は全国と比べ7問～11問（正答率約43%～68%）の割合が高い。

<分類・区分別集計結果>

【数学A】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本市	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	11	77.8	73.5	72.7
	図形	12	70.9	66.4	64.6
	関数	9	64.5	60.0	58.7
	資料の活用	4	49.6	48.3	46.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	17	73.1	68.7	67.9
	数量や図形などについての 知識・理解	19	65.4	61.6	59.8
問題形式	選択式	18	67.2	63.6	61.8
	短答式	18	70.9	66.3	65.5
	記述式	0			

【数学B】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本市	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	5	44.0	43.0	41.7
	図形	2	48.8	45.1	44.8
	関数	6	41.9	40.1	40.0
	資料の活用	3	45.7	43.8	42.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	36.6	35.0	34.8
	数学的な技能	2	56.3	55.7	53.1
	数量や図形などについての 知識・理解	2	77.2	72.8	70.7
問題形式	選択式	4	41.2	43.2	43.3
	短答式	5	61.4	57.8	55.8
	記述式	7	33.4	30.8	30.3

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【数と式】

○A 領域の平均正答率は 77.8%で、全国平均より 5.1 ポイント高い。特に、数量の関係を文字式で表す問題や二元一次方程式の解の意味を確認する問題の正答率は全国平均より高い。

【図形】

○A 領域の平均正答率は 70.9%で、全国平均より 6.3 ポイント高い。特に、拡大図をかく問題、見取図や投影図から空間図形を読みとる問題の正答率は 90%を超えている。

【関数】

●B 領域の平均正答率は 41.9%で、全国平均より 1.9 ポイント高い。ただ、日常生活の中で起こりうる事象について、関係を表した式の意味を説明したり、他の事象との関係を考えたりする問題の正答率は全国平均より低く、課題がある。

【資料の活用】

●A 領域の平均正答率は 49.6%で、全国平均より 2.8 ポイント高い。ただ、確率の意味、相対度数の変化の様子を読みとる問題の正答率は全国平均より低く、課題がある。

数学に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

○数学の勉強は好きであると回答した生徒の割合は、全国平均より 8.4 ポイント高い。

○数学ができるようになりたいと肯定的に回答した生徒の割合は、95.2%と高い

●数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えていると回答した生徒の割合は、全国平均より 5.7 ポイント高いが、18.6%と割合は低い。

指導改善のポイント

【数と式】

・基本的な計算の仕方を確実に定着させるために、反復練習を徹底させるようにする。

【図形】

・空間における位置関係を理解させるために、見取図だけで考えるだけでなく、実際に、立体を様々な角度から観察するなど、実感を伴えるよう、指導を工夫する。

【関数】

・関数の意味を理解し、具体的な事象における2つの数量の関係を表・式・グラフに表すことで、変化や対応を調べられるよう、指導を工夫する。

【資料の活用】

・資料の傾向を読み取るために、代表値を求める活動を通して、資料の特徴を捉えたり、代表値の必要性和意味を理解したりできるように指導を工夫する。

3 生徒質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》

- 「将来の夢や目標を持っていますか」に関する肯定的回答は84.4%で、全国平均(64.8)を上回っている市の平均(77.0)を大きく上回った。
- 達成感や挑戦意欲，行動や発言に関する自信など，自己肯定感に関する肯定的回答が，いずれも全国・県の平均を上回った。
- 地域・社会の問題や出来事への関心，取り組む姿勢に関する肯定的回答は，共に全国平均を上回っている市の平均を上回った。
- 「携帯電話やスマートフォンの使い方について，家の人と約束したことを守っていますか」に関する肯定的回答は57.4%で，全国・県・市平均を上回っているが，今後、更に高い肯定的回答となることを望みたい。小中連携の中で，早い時期からの家庭への啓発が重要である。